

事業者のごみ減量・リサイクルについての取り組み報告<事業所>



事業者活動部会で事業所のごみ減量・リサイクルについての取り組みについて、取材を行いました。



<取材事業所>

亀戸ゴム工業株式会社

(葛飾区東立石) 4-37-15

業種：ゴム製品製造業

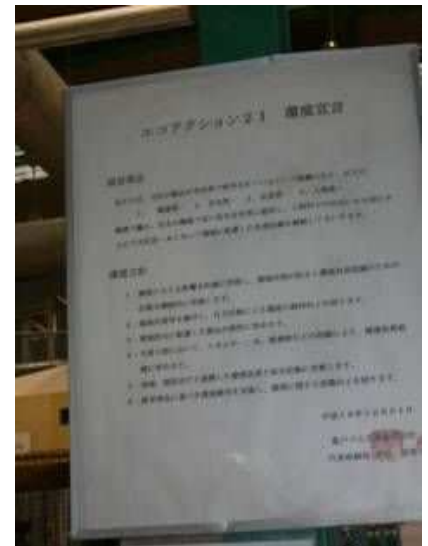
主に電気製品などに使用される極薄ゴムシートを製造している。

エコアクション21の取得

亀戸ゴム工業株式会社ではエコアクション21(以下、E A 21)を2007年9月に認証取得した。E A 21を取得するきっかけは、取引の流れから会社の信用力を増す一つの方策として取得した。

E A 21の取得に際しては、電力・一般廃棄物・産業廃棄物・水の使用についてそれぞれ削減の目標値を設け、削減の取り組みを行った。

E A 21の取得以前から事業所内に「MD(無駄をなくそう)委員会」という委員会を開催し、事業所の効率性や無駄について話し合いの場をもっている。各セクションの担当に目標値を持って改善に取り組んでもらい、その結果と要因の発表の場としている。今回のE A 21取得もこのMD委員会の取り組みが大きく影響を与えている。



事業所に掲示しているE A 21の環境宣言

事業所の具体的な取り組み

事業所内での具体的な取り組みを紹介します。

〔作業所内での工夫〕

- 原料などが入っていた袋や芯管を他の用途に使用するために倉庫に分別して保管しておき再利用やリサイクルにまわしている。
- ごみ箱を赤と青に色分けをして、視覚的に燃やすごみと燃やさないごみをわかりやすくし、間違ったごみの分別を避けるようにしている。
- 従業員が飲み物を飲んだ紙コップを消毒乾燥し、ゴムの薬品を配合する計量カップとして再利用している。



再利用等する袋などの保管スペース



(右) 使用済みの紙コップの再利用の状況

- ・薬品の配合には従来ポリ容器を使っていたが、現在は原料が入っていた袋を再利用して、袋の中で配合容器に代えている。
- ・機械に使う油を通常は1回で廃棄してしまうところを濾すなどして3回は使うようにしている。
- ・製品の製造過程で使用する粉をふるいなどに掛けるなどして再利用可能なものは再利用している。
- ・ゴム製品製造過程で使用する布を今まで産業廃棄物として廃棄していたが、現在は布をリサイクルとして業者に引き取ってもらっている。
- ・未検査品を汚れ防止として外部から品物を包んできた包装用紙を何度も再利用している。



薬品配合用の容器としてに再利用している袋



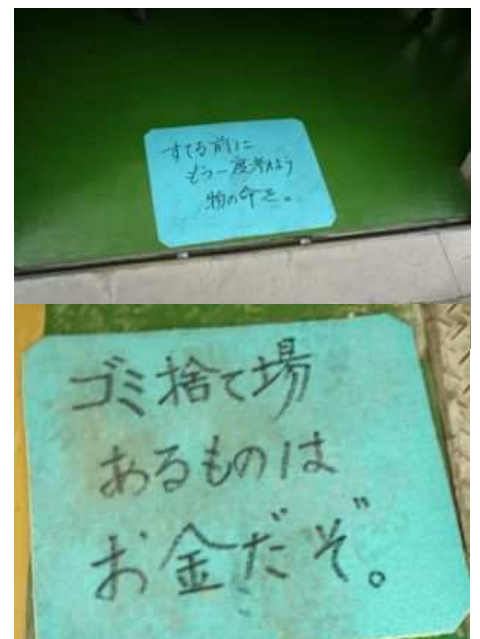
リサイクル業者が引き取る布。以前は廃棄物として処分していた



何度も利用して製品名を書き換えて未検査品を巻いてある紙

〔従業員への教育指導など〕

- ・月1回、MD（無駄をなくそう）委員会を開催し、事業所内で効率化や無駄の削減などの目標値を決め、その目標を達成できたか何故できなかったかの発表を行っている。
- ・朝礼や全員参加の全体研修会で事業所内の無駄を生じないように教育を行っている。
- ・従業員から意識啓発の標語を集め、その標語を作業場入り口のマットに書くなど、効率化や環境に対する意識を高めている。
- ・事務所では紙類裏面利用や古紙の回収を徹底していくように努めている。



作業場の入り口にある標語入りマット。

取り組みによる効果と課題

様々な取り組みの結果、2006年には約57トンだった産業廃棄物が2008年には約40トンまで減った。また、事務所で使う紙類などを徹底的に古紙回収にまわすなどの工夫をしたことで、2006年は約9トンだった一般廃棄物が2008年には約6トンに減った。布を再利用に回すことにより産廃の減（15トン）という要素も大きいですが、小さな取り組みの積み重ねがごみ減量につながっているとみえる。

ごみの減量により、今までかかっていた処理経費も大幅に減らすことができた。

様々な取り組みで成果を出している一方、現状の取り組みや減量策では今後は削減幅がほとんどなくなってしまおうと思われる。



分別保管している廃棄物置き場。

全く別の考え方に立って取り組みを行わなければ更に改善していくのは難しいと事業所では考えている。

亀戸ゴム工業(株)の菅谷俊紀常務は、「E A 2 1 を取得することは大変だったが、その分ごみ減量や効率化に対する従業員の考え方も大きく変わってきた。是非、他の事業所も取得に取り組んで欲しいと考えている。」と語った。